

平成25年度 学校評価実施報告書

1 平成25年度 重点評価項目

	・高等部生活産業科卒業生の職場での状況 ・高等部生活産業科卒業生の家庭及び社会生活の状況
--	---

2 1回目評価

2-① 自己評価 【 評価日 : 平成25年10月21日

評価者・組織(名称) : 経営会議 】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	コミュニケーション能力の育成 自分の役割の理解 仕事に必要な知識や技術 福祉や社会制度についての知識 携帯電話やスマホの適切な使用	企業・卒業生の保護者によるアンケート調査 企業・卒業生の保護者によるアンケート調査 企業によるアンケート調査 卒業生の保護者によるアンケート調査 卒業生の保護者によるアンケート調査	企業や事業所で、自分が今担っている役割を果たすために必要な知識や技術を身につけていることや、必要な報告・連絡・相談が最低限できていることが確認された。福祉や社会制度については、知っている者よりも知らない者の方が多いという結果であった。携帯電話やスマホの使用については、ほとんどの者ができていたが、一部課金制のゲームアプリの購入などで高額の料金を請求された者があった。	企業や事業所は、今の職務を果たすだけでなく、今以上の職務遂行を求めており、そのための知識や技術の向上を図ることが求められる。本校が実践するキャリア教育の中で、常に自己を向上させようとする意識の育成が求められており、今後、専門教科の学習や職場実習の場で、そのことをしっかり目標に位置づけ、生徒がそのような意識を持って取り組むための指導を行っていく。
2	豊かな心	職場の同僚や家族・地域の方とのつきあい 職務上の同僚等との協力 仕事や生活への満足感 余暇の活用 社会人としての意識や行動	企業・卒業生の保護者によるアンケート調査 企業によるアンケート調査 企業・卒業生の保護者によるアンケート調査 卒業生の保護者によるアンケート調査 企業・卒業生の保護者によるアンケート調査	職場の同僚や上司との職務上の関係は概ね適切であったが、困ったときの指導や支援を求めることについては、一部できていない者がおり、そのことが職務遂行上のネックになっていた。仕事や生活への満足については、現状では特に問題はないが、将来の夢や希望を明確に持っている者が少ないという結果であった。社会人としての意識や行動、余暇の活用は概ねできていた。	職務上必要な指導や支援を求めることは、職務遂行上必要なことである。学習だけでなく学校生活の様々な場面で、適時に適切な質問をすること、必要な指導や支援を求めることを引き続き指導していく。将来への夢や希望を持つことは、仕事や生活上の日々の満足感とも大きく関わることであり、「職業」の授業や共通教科の授業の中で、そのような夢や希望を持つことの大切さを指導していく。
3	健やかな体	日常生活習慣の確立 仕事に必要な体作り	企業・卒業生の保護者によるアンケート調査 卒業生の保護者によるアンケート調査	社会人として働きながら生活する上で必要な日常生活習慣は確立していた。食事や睡眠、休養等もほぼ適切に取れていた。	学校生活を適切に送るよう指導する中で、卒業後の働くことを中心とした生活に必要な日常生活習慣の確立や、「職業」等の授業の中で、健康維持のために必要な内容を養護教諭等とも連携しながら指導していく。
4	学校独自の取組	情報発信の充実	学校HPの更新状況	月1回の「学校だより」の発行を行った。学校HPの適時の更新を行っており、学校行事の紹介や、生徒の学習の様子、高等部職業学科入学に向けた進路情報の提供を行った。	「学校だより」の発行、学校HPの更新を引き続き行っていく。平成26年2月に研究発表会を開催する予定であり、本校の教育方針や教育内容などを広く発信していく。

2-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成25年11月22日

評価者・組織 : 学校運営協議会、学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
アンケート調査の結果をふまえて、改善事項について下記の指摘を受けた。 ○キャリアプランの作成への児童生徒の参画を進めることが必要 ○コミュニケーションに関する指導の改善・充実が必要 ○保護者啓発の取組が必要	キャリアプランの作成への児童生徒の参画を進めることについては、児童生徒自身が目標を考えることができるための、大人からのほたらきかけが必要。 コミュニケーションの課題については、ロールプレイやSSTなどを取り入れた指導の改善を図る。 取組を進めるためには、保護者の啓発が必要であり、保護者学習会の開催などについて、運営協議会も協力して取組を進める。

## 2回目評価

3-① 自己評価 【 評価日 : 平成26年2月28日

評価者・組織(名称) : 経営会議

】

	分野	評価項目	評価指標	分析(成果と課題)	改善策
1	確かな学力	学習への取組 学習への満足 学習の成果 教師の指導・支援について	児童生徒へのアンケート 児童生徒へのアンケート 児童生徒へのアンケート 児童生徒へのアンケート	ほとんどの児童生徒が、目標を持って学習に取り組んでおり、学習への満足感や達成感を感じていると回答していた。 教師の指導や支援については、9割前後の児童生徒ができていたとの回答であった。	・学習内容の見直しなど教育課程の改善を図る ・個別の包括支援プラン(キャリアプランの)改善を図る ・上記2点について、児童生徒の視点からの改善を図る
2	豊かな心	あいさつや言葉づかい 学校のきまりや約束 友だちへの思いやりや協力	児童生徒へのアンケート 児童生徒へのアンケート 児童生徒へのアンケート	あいさつや言葉づかいなどコミュニケーションに関することについて、4分の1の生徒ができていないと回答しており、コミュニケーション力の向上が課題である。学校のきまりや約束、友だちへの思いやりや協力は、ほとんどの生徒ができていたと回答していた。	・ロールプレイやSSTの技法なども取り入れ、コミュニケーション力の向上を図る。
3	健やかな体	健康への意識	児童生徒へのアンケート	ほとんどの生徒が健康に気をつけることができていた。	今後も全校体制で健康教育に取り組んでいく。
4	学校独自の取組	進路についての相談 進路学習や実習の取組 情報発信の充実	児童生徒へのアンケート 児童生徒へのアンケート 学校HPの更新状況	進路についての教員や保護者との話し合いについて、生徒自身が十分にできていないと感じており、改善が必要であることがわかった。 学校HPの更新は積極的に行っている。月1回の学校だよりの発行、学校運営協議会だよりの発行などを行えた。	・学習目標の設定や進路相談の際に、児童生徒の積極的な参画を図り、児童生徒が自ら考えた目標の達成に向け、学習や実習などに取り組むようにする。 ・教育相談の充実を図り、児童生徒の思いや願いを引き出す。 ・学校HPについては、現在と同じように積極的に更新していく。
5	その他	児童生徒の学習や生活の様子	保護者へのアンケート	前期で実施した卒業生に関するアンケートの結果を提示し、在校生の様子を含めて課題や成果について尋ねた結果、保護者もコミュニケーション力について課題を感じることがわかった。	・保護者との課題の共有を図るとともに、学校の取組について保護者への説明を十分に行い、学校と保護者が同じ方向性で連携・協力して取組を進めていけるようにする。

3-② 学校関係者評価 【 評価日 : 平成26年3月7日

評価者・組織 : 学校運営協議会, 学校評議員 (いずれかに○) 】

評価結果	改善に向けた支援策
本年度、学校はさまざまな取組を行い、成果を上げている。しかし、その取組を保護者に説明する学習会の設定が無いために、学校の取組に対する保護者の認知度が低いなどの課題が見られる。今後、シラバスの整備や保護者向けの学習会の開催などの取組を通して、保護者を巻き込んだ取組にしていく必要がある。 児童生徒アンケートの結果からは、児童生徒の自己評価の低さがうかがわれ、それへの対応が必要である。 これまでから課題となっている、学校からの発信の充実については、よりいっそうの取組を推進する必要がある。	現役の保護者と卒業生の保護者の学習会が、保護者自身の取組として始まっているなど、新しい動きがある。学校も、平成23年に学校運営協議会が発足して以来、地域と連携した取組やサテライト施設の活用など、様々な取組を展開し、成果を上げている。今後、運営協議会も学校と連携・協力しながら取組を進めていく。

## 総括・次年度の課題

本年度の成果と課題をふまえて、以下の3点について改善と充実を図る。

- ・教育課程の改善
- ・キャリアプランの改善
- ・児童生徒の視点に立った改善